

法務省“社会を明るくする運動”中央推進委員会主催

第７１回“社会を明るくする運動”作文コンテスト

**見えない非行**

京都府・精華町立精華台小学校・六年

テレビで小中学生に人気のドラマ番組を見ました。その話には非行少年が出てくるのですが、その見た目がありえなくて思わず笑ってしまいました。なぜなら、奇抜な髪型に、制服をダボダボにして着たり、「こんな人いる－？」という容姿でした。しかしとなりで見ていた親は、「昔は非行といえばこんな格好だったよね。今はこんな子を見ることないね。昔は非行がわかりやすく、周囲の大人も気にかけやすかったのにね。」と言っていました。たしかに、私たちの回りにいる非行は、見た目は普通の人と変わらず、何か問題が起きるまでわからないことも多いです。特にそう思うのはＳＮＳに関する犯罪です。私の周りでも小学生だけどスマホを持っている友だちは多いです。ＳＮＳで知り合った友だちを親友と呼ぶ子や、「映える！」と写真をとっては投稿する子がいます。私がスマホを持っていないからか、それらはとても怖く感じます。

私の友だちは、ゲームを通して「さっちゃん」と知り合いました。近くに住む同年代の友だちと言っていたのに実際のさっちゃんはおじさんでした。そして学区まで知られてしまい大変だったと言っていました。これでは、いつ犯罪にまきこまれてもおかしくないと思います。

しかし、私がもっと怖いと感じたのはスマホが犯罪の意識を低くさせてしまう物だということです。

例えば一つ目は、ゲームのやりたさに親の許可なくスマホゲームの課金をすることです。これは、親の財布からお金をぬすむようなもので、万引きみたいに感じます。

二つ目は、ネットに悪口をかいて拡散することです。これは、悪口をかいたはり紙をはったり、トイレなどの落書きと同じようなものだと思います。

なぜ平気でこのような犯罪といえることをしてしまうのでしょうか。私は、自分の家でスマホで操作するため、指先一つでこれらの行為ができてしまうからだと思います。

親のお金を財布からとる時にはきっと、一度は「悪いな」と思うでしょう。悪口を落書きする時も少しは心がチクリと痛むことがあると思います。ですが、いつでもどこでも指先一つでしゅん時にアクションを起こせるスマホは私たちの良心が痛む時間を与えません。悪いことをしている姿をだれかに見られる心配もなく、自分の部屋で犯罪行為ができてしまうのです。これは罪の意識と罪悪感をグッと下げてしまう、おそろしいことだと思います。

このような一見ふつうのように見える子供が起こす非行はどうすれば防止することができるのでしょうか。それには、「想像力」を育むこと、「自分が大切にされている」と実感できることが必要だと思います。周りから「ダメ」と言ってもらえる機会が減った今、「ダメ」と言えるのは自分自身の心だと私は思います。

私の家には、生まれた時から今までのアルバムがあります。私は、たまにそれを見るのが大好きです。家族のお誕生日には、その人のアルバムをみんなで見ます。なつかしい気持ちと同時に「こんなこと、してもらったな。」と私が大切に育てられてきたことを実感します。たまに口答えしてしまう思春期突入の私ですが、それを改めよう、と申し訳ない気持ちになったりします。忙しい中、父が時間を作ってお出かけに連れていってくれたこと、母が作ってくれた行事の時のごはんやお弁当。兄や妹と楽しそうに笑っている私の写真。「幸せだな。」とふだん改めて感じることがない気持ちに気付きます。私を大切にしてくれる人がいるという存在のありがたさ、そしてこの人たちには絶対に悲しい気持ちを、味わってほしくない、という気持ちがムクムクわいてくるのです。この気持ちが非行防止につながるのではないかと思います。

スマホの普及やネット社会の今、便利になった分、非行への扉が身近になってしまっていると思います。だからこそ、相手のことを考える「想像力」と「自分が大切にされているという実感」で自分自身の心を成長させ、「ダメ」と言えるようにすることが非行防止につながると思います。

今後、自分で自分に「ダメ」と言えて、非行の扉を開けないようにすることのできる人が増えていってほしいと思います。